

✿ 発掘調査の概要

藤原京左京二条三坊・三条三坊の調査(飛鳥藤原第173-1次)

本調査は水路改修の事前調査で、調査区は南北118mにわたり、東二坊大路と二条大路の推定位置にあたります。現代の水路による攪乱かくらんが著しかったものの、南北溝1条、土坑4基を確認しました。

今回見つかった南北溝は、埋土から古代の遺物が出土していることから、東二坊大路東側溝の可能性ががあります。東西道路である二条大路については、北側溝推定位置は現代の水路で攪乱を受けていました。南側溝推定位置では、調査区西壁で観察が可能でしたが、東西溝は確認できませんでした。このことから、二条大路南側溝は、東二坊大路を横断しない可能性が高いといえます。

この他、4基の土坑は、出土遺物より古墳時代前期の遺構であることがわかりました。互いに離れた場所に位置し、狭長な調査区である等の制約がありましたが、当該期に調査区周辺で土地利用があったことがあきらかとなりました。

また、現代の水路は、正方位から多少振れているものの、ほぼ南北方向に直線的に流れており、条里の境にあたります。このことから、東二坊大路東側溝を踏襲した南北溝が古代以降、近現代に至るまで、少し位置を変えながらも使用されていた可能性が認められます。(都城発掘調査部 木村 理恵)



調査区全景(北から)